

(別紙)

## 病院医学教育研究助成成果報告書

### (1) 研究題名

7対1入院基本料導入に係わる看護必要度評価のための院内指導者育成

### (2) 研究組織等

研究組織の名称

看護部

研究責任者名(所属)

吉岡みち子(看護部)

共同研究者名(所属)

秦美恵子 武田美和子 八國秀子

### (3) 研究費及び研究費の使途

研究費

559,000円

研究費の使途

「看護必要度評価者 院内指導者研修」受講(社会保険事務局認定研修)

旅費・日当 204,420円(東京:3名分)

旅費・日当 7,990円(松江:4名分)

受講料 80,000円(10名分)

計 266,590円

当初講習会が県外での開催のみであったが、県内で衛星放送受信により受講可能となったため、受講者を増員した。

そのため、予算額を大きく下回る結果となった。

### (4) 目的及び方法、成果の内容

目的

2008年度診療報酬改定では、患者の状態に応じた適切な患者配置の実現をめざして7対1入院基本料の見直しがなされた。新たな算定要件として、患者数と看護要員数だけではなく、急性期等手厚い看護を必要とする患者の看護必要度を測定する基準を導入し、基準を満たす場合に算定ができる仕組みとなった。

当院での2009年度より7対1入院基本料取得をめざしているが、事前準備として看護必要評価のための、評価者の育成が必須となった。そこで今

年度は、看護管理者が「看護必要度評価者研修」を受講し、診療報酬に係る看護必要度の基本的な考え方や評価に対する正しい知識を習得と院内指導者として看護必要度の実施に向けたスタッフ教育の実施を目的とする。

#### 方 法

- 1) 「看護必要度評価者 院内指導者研修」受講（社会保険事務局認定研修）
  - ・平成 20 年 7 月 20 日 看護必要度評価者 院内指導者研修（東京）  
看護師長 3 名が受講
  - ・平成 20 年 11 月 3 日 看護必要度評価者 院内指導者研修（松江）  
看護師長 7 名 副看護師長 2 名 看護師 1 名 が受講
- 2) 看護必要度院内研修実施計画書に基づき研修会実施
  - ・平成 21 年 3 月 研修に参加し看護必要度評価者として修了証の発行を受けた者が中心となり、部署単位で他のスタッフへの教育を行った。
- 3) 看護必要度システムの操作説明会実施
  - ・平成 21 年 3 月 看護必要度に係るシステムの稼働にあわせて、各部署の E R の端末から現場教育を開始した。

#### 成 果

- 1) 「看護必要度評価者 院内指導者研修」受講（社会保険事務局認定研修）

今回、院内指導者の育成を当初 7 名予定していたが、県内での研修会開催が急遽決まったため受講者を 6 名増員し参加した。一般的な研修会とは異なり、研修前に e-ラーニングによる自己学習が課せられ、そのトレーニングの成果と研修当日の試験結果をマッチングさせて修了証が発行されるという極めて厳しい状況であったが、最終的には計 13 名が修了証を得ることができた。

研修では、看護必要度を正しく測定するノウハウだけを現場に浸透させるのではなく、7 対 1 入院基本料の算定要件として、急性期等手厚い看護を必要とする患者の看護必要度を測定する基準を導入した意義なども含めて学ぶ機会となった。

- 2) 看護必要度の研修会と看護必要度システムの操作説明会

平成 21 年度採用者数が、7 対 1 入院基本料取得に届かなかったことや、看護必要度に係るシステムの構築（図 1 参照）が遅れたことから、開催時期が当初予定していた 12 月・1 月から大きく遅れ、3 月末の実施となった。年度末にかかり研修時間も取れない状況であったため、現場スタッフへの周知は充分できているとは言えない。新年度を向かえ、各部署スタッフの交代もあるので、引き続き現場教育を実施していく予定である。

以上のことから、今回の「7対1入院基本料導入に係わる看護必要度評価のための院内指導者育成」の研修計画は概ね達成できた。今後7対1看護を獲得していく目標に沿って、集合教育も織り交ぜながら看護必要度が患者管理・看護管理のツールとして活用していきたいと考える。

< 図 1 > 看護必要度入力画面

